



2007太田まつりフォトコンテスト 特選「輝祭」
平澤 一彦さん

水の思い出 ④

今から30年以上も昔、鯨ヶ丘から東を望むと眼下には一面の水田地帯が広がっていた。青々と広がる「稲の草原」の中に、ぼつんぼつんと人家が点在している風景があった。私たちはそこを「東(ひがし)田んぼ」と呼んでいた。放課後になると、太田落雁に集合。そこから「東田んぼ」に出動！四季を問わず、私たちは日が暮れるまで遊んでいた。バッタやイナゴ、トンボ、カマキリを追いかけた秋。うずたかく積まれた藁の中にもぐりこんでふざけ合った冬。でも、一番ワクワクしたのは、春から夏にかけて「水辺の生き物の季節」だった。鯨ヶ丘の斜面からわき出る一筋の流れには、沢ガニが棲んでいた。岩をどかしたところで沢ガニが見つかる瞬間はドキドキした。田んぼのあぜ道を行くと、カエルが四方に飛び出し、その横を流れる小川(用水路?)には、どうしても素手で捕まえたかったドジョウが泳ぎ、さらには、タガメなどの珍しい水生昆虫にも心が躍った。水田側に目をやれば、カエルの卵。その感触を楽しんでいるとザリガニの穴を発見！しばらくザリガニつりを楽しむ…。いまでも、水田の横を流れる小川が、チョロチョロと水音をたてていると、ついつい近寄ってのぞき込んでしまう。

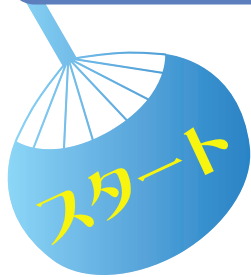
鯨ヶ丘から見えた田園風景はいまはない。沢ガニを見つけていた流れも、ドジョウを追いかけていた小川も消えてしまった。30有余年の時の流れを感じつつ、「30年経って変わらないのも逆に寂しいものかな。」などと思ってみたり…。太田落雁に立ち、パーティホールや大型店舗がある方面から吹いてくる風を受け、そっと目をつぶってみた。小川をのぞき込んでいる少年の自分が見えた。

栄町 平澤 一彦

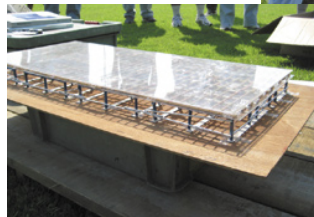
太田まつりゴールへの道 ～華やかな舞台を支える人たち～

常陸太田市の夏といえば太田まつり！その華やかな舞台は多くのボランティアの力によって支えられていました。今回は、その裏側を紹介しちゃいます。

山吹公園でのステージ準備開始！



ステージ模型を基に安全確認しての作業スタート。



盆おどりの支度もバッチリ。



この時だからこそできる体験。

炎天下、ひたすら作業が続きます。



見事なバチさばき。

中学生ボランティア総勢100名以上。遊びのコーナーや案内・進行などまつりを元気に盛り上げます。

8/14 太田まつり前夜祭 (東通り)



「おねえちゃん、これちょうだい」

「太田まつりグッズいかがですか？」



中学生たちの活躍で賑わう前夜祭(14日)つりを盛り上げる盆おどり・久自楽舞入祭りは見ているだけじゃもったいない！新たな発見が！創り上げる現場で仲間同『夏』だからこそそのわくわく感を実感しまつりの参加は、ゴミを持ち帰る小さな事そんな「太田まつり」楽しんでみてはい

(萩谷浩)

市民盆おどり・久自楽舞ステージ



久自楽舞
ステージを
真近に!!



「ステージが見えない」との声に巨大スクリーン登場。アップで映し出します。

2007年太田まつりフォトコンテストの作品より
「民謡楽鵬会」「島町太鼓ばやし保存会」
の皆さんが担います。



クライマックスは… 太田の夜空を彩る花火

まつりの後は大量のゴミ…

今年はゴミの持ち帰り・片付けに
ご協力を!!



花火師の家ぞくの願い…

「無事に花火があがりますように」
まつりへの思いをのせて点火!!
きらめく夜空へ。



8/16 朝早くから

中学生ボランティアも加わり
小さなゴミまで拾います。



ゴール
今年につづく

今年の予定です

8/14(木) 前夜祭(東通り歩行者天国)

8/15(金) 盆おどり・花火
(山吹運動公園グラウンド)



)、大勢の市民がま
ステージ(15日)。
踊って参加したら
土の楽しみが!
てみてください。
でもOK。今年は、
かがでしょうか。
司、後藤百合子)

ゆげた 関わる楽しさ～弓削田 哲弥さん

太田まつり実行委員は地元出身者がほとんど。その中で旧浦和市出身の弓削田哲弥さんは、転勤族ともいえる職業でありながら実行委員として活動されていました。彼に続いて同僚が今年の実行委員会に参加しています。
(上田 進)

■委員に応募したわけは？

「この街をもっと知りたい」「地域の方と話したい」「楽しい街にしたい」が一番の目的です。

地元の方と話す接点が少なく悩んでいたところに、市の広報誌に太田まつり実行委員募集の案内があり、よくわからないまま参加希望の連絡をした覚えがあります。

■委員会はどうでしたか？

実行委員会への参加は一昨年と昨年の2回、一言でいうと「楽しすぎる」です。数カ月の間会議が続きましたが、大変と感じたことは一度もありませんでした。先輩の方たちが毎回最高の祭りを創り上げるために熱く議論している姿に圧倒され、素晴らしい町の人たちだなと思って、自分もその中に



写真中央が弓削田さん

るんだと…。実行委員会を通じて伝統ある祭りを知ることができ、たくさんの素晴らしい人と出会うことができたことに感謝しています。職場は常陸太田市山下町にあり、勤務3年目になります。市内は地図を見なくても迷わず運転できるぐらい慣れてきました。常陸太田市がもっと楽しい街になるよう、全面的に街に貢献したいと思います。



JR水郡線からさらに枝分かれしての常陸太田。失礼ながら舞祭りがなければまず訪れるきっかけがなかったところだけに逆にどんな町かと興味が膨れる。林を抜けてから田畑が広がり町が見えてきました。猛暑日の午後、常陸太田駅に降り立ち町探索。

うわっと上り坂の石畳。なんだこれとは汗かいて上りきると、左右にのびる平行な二筋の道沿いに家が立ち並んでお祭りがされています。急坂の丘の上が昔ながらの町の中心部。その二筋を横切りさらに直進。今度は逆勾配、下り坂の石畳。なんとこれが…と体感できました。先ほどの二筋の平行の道を鯨の背に見立てれば、陸に巨大鯨が横たわり、その背に沿って町がある。HPにいわれの記載もありましたが、町を歩いてなるほどと実感できました。

太田祭りは14日が商店街をパレード通りにした前夜祭、翌日が山吹運動公

踊りの二重奏・太田まつり～ 「天満の松八」と松本 裕治さん(横浜市在住)

昨年太田まつりに神奈川県横浜市より参加した人がいます。「天満の松八」というネットネームで久自楽舞のブログにも常陸太田の祭りの感想など詳しいレポートをアップされています。外から見た太田まつりはどんな印象なのでしょう。
(上田 進)

園で舞祭と市民盆踊り。舞祭も盆踊りも好みの私は、2つの舞台装置が並んで建っている絶景に、たいそう喜んでいました。

前夜祭では踊り子たちとの距離が近く、迫力を目の当たりにしながら観れたのでお得でした。総踊りで踊っていたら「お父さんが踊っていますよ。」とインタビューされました。訪れる町にも町の人にも馴染みたいと思っているので、いいきっかけになりました。

今回、太田の盆踊りに参加してまず驚いたのが、「三浜盆唄」であるということ。太田音頭かなとてっきり思っていました。それが、大洗北方の、湊・平磯・磯崎3つの浜に伝わる盆踊り唄がここまで来るかとは意外でした。板谷坂は日立の海につながるとあります。もしかしたら三浜盆唄は、浜沿いに日立まで広がり、昔の人々の往来により古街道を通して板谷坂を越えて来たのかと。

そう考えるのもおもしろいです。

前半の園児たちのアンパンマン音頭はかわいらしかった。元気も良かったし飽きない。後半の一般盆踊りタイムは、見てる人が多いなあと。最初から踊りに来たわけではなく出店やイベント目当ての人、舞祭にきた人たちを盆踊りに巻き込むには、元気さとノリ、いろいろな曲の品揃え、真似しやすいお手本とかが要るでしょう。今まで、積極的に盆踊りに参加していただいた団体の皆さんには、やぐらの周りの内側の円でのモデル役をお願いして、初めて踊るお祭りのお客さんのお手本になってもらえると踊る人が増えてお祭りもさらに楽しくなるのではないのでしょうか。

常陸太田ですごいと思うのは、合併した周辺地域からも参加機運のうねりがあることです。自分の地元もがんばらないといけません。

(松本 裕治)

「太田まつり」の花火の楽しみ方

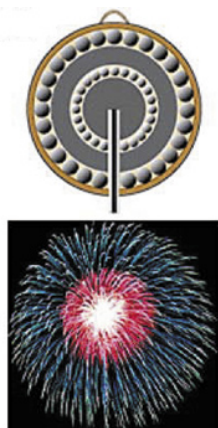
西野 寧さん（東二町）

★花火の歴史

花火は西暦200年頃中国で狼煙（のろし）として使われていた火薬が原点とされています。日本では種子島に鉄砲が伝来した頃から花火が製作されたようですが、ある程度形になった「花火」を日本で初めて鑑賞したのは徳川家康であったとされています。江戸の花火師「鍵屋弥兵衛」が現在の

花火の原型を作り、将軍吉宗時代に両国の川開きに大規模な花火を打上げました。また、鍵屋から独立した「玉屋弥兵衛」と共に現在の隅田川の花火大会の基礎をつくりました。大正時代に現在多く見られる「芯物花火」が開発され「丸く大きく開き、色が変わりながら幾重にも重なる」世界一といわれる日本の花火が完成しました。

★花火の仕組み



打上げ花火はその構造上から大きく二つに大別されます。ひとつは「割物」といって玉の内側にびっしりと星を並べ、中央の割火薬で大きく丸く開かせるものです。おなじみの菊・牡丹などが代表格です。



もうひとつは「ポカ物」といって火薬量は多くなく大きくは開きませんが、内側の星や細工の工夫により変化のある開き方をします。柳や蜂などです。



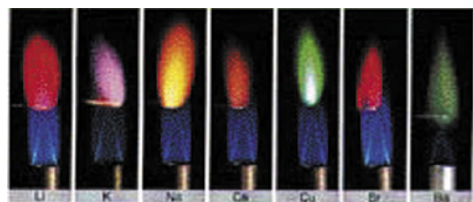
他にも「小割物」といった玉の中に星ではなく小型の玉を入れ多数の小花を咲かせるものもあり、「割物」と「ポカ物」の中間的な物も作られています。

★花火の大きさ



打上げ花火は一般的には2寸玉（直径約6.6cm）から3尺玉（直径約99.5cm）まであり、近年4尺玉といった直径が1mを超える玉も作られ始めました。普通の花火大会等で使われるものは4寸玉から1尺玉が多く、太田まつりでは安全の関係上、4寸玉（直径11.5cm）が打上げられます。4寸玉で約160m打ちあがり、半径65m開きます。

★花火の色



現在の花火は様々な色がありますが、元々は「和火」と呼ばれる木炭が燃える暗いだいたい色だけでしたが、様々な薬品の開発によりいろいろな発色が可能となりました。紅色は炭酸ストロンチウム、緑色は硝酸バリウム、黄色は炭酸カルシウム、青色は酸化銅、銀色はアルミニウム、金色はチタン…など他にも使用する薬品でかつては難しかったピンクや紫、水色といった中間色も可能になりました。

★楽しみ方の極意

- ①「目で楽しむ」 これはそのまま、「見て」楽しむこと。でも単に「うわーっキレイ!!」っていうだけでなく、ちょっとだけ花火のウンチクを頭に入れて見ると、もっと楽しめると思いますよ!
- ②「耳で楽しむ」 花火には2つの音があります。ひとつは重低音の「打上音」オナカにズシンと響きます。もうひとつは「破裂音」大空に響く「花火ドーン!!」です。太田まつりならば至近距離で見られるのでどちらの音も楽しめます。（ぜひ会場にお越しください!）
- ③「余韻を楽しむ」 最近はスターマインなどの連発型の花火が好まれますが、花火本来の楽しみ方は一発一発打上がる単発物。一発上がって、音と光と形を楽しみ、耳に残る残響音、目に残る残像をシミジミと味わう事こそ「粋」な楽しみ方と言えます。だから太田まつりでは単発物はゆっくり打上げます。花火と花火の間の「余韻」を楽しんでください。



イワナの秘密

里川の源流には地元で「ネコマタギ」と呼ばれる魚がいた。魚好きの猫さえもまたいで通るほどマズい魚という意味の名前である。後に「サトミイワナ」と呼ばれるイワナである。氷河期の生き残りと言われ、イワナ特有の斑文が虫食い状態で、他のイワナとは異なる種として扱われ、保護されるようになって30年あまり。看板を立てて保護を呼びかけたり、不本意に放流されたヤマメを駆除したり、産卵床や新しい流路を作ったり、試行錯誤しながら保護活動を進めてきた。多くの人たちの協力なしでは、今の状況は無かつたろうと思う。

ここ数年保護活動の成果がやっと現れ始めたような気がしている。昨年10月末、市文化課職員・水生生物保護研究者と3人で現地に魚影確認のため沢を登っていった時、ペアを組んだ魚影を発見したが、さっと身を隠してしまった。研究者が「あそこは産卵床だ」と指さす先は大きな砂利の下に小砂利の粒が少しくぼんでおり、小砂利がきれいに洗われていた。離れて3人で眺めていると、まずメスが戻り、次にオスが戻って寄り添って泳いでいる。メスが時折尾びれで小砂利を掘っていた。「床の水の深さを調整しているんです」との説明を受ける。オスはしきりに産卵を促すがメスはなかなか応じてくれない。根気よくメスの機嫌を取りながら体当たりを繰り返していた。

その時メスがちょっと深く潜り産卵床に腹をこするような仕草をして口を大きく開いた。すかさずオスが精液をかけ、その後はまた床の上でダンスを舞っている。30分ほど観察を続けたが産卵は2回しか確認できなかった。30年近く保護活動を行って来たが、産卵を確認できたのは初めてである。誠に感動の一瞬であった。今後も絶滅危惧種に対する保護活動は続けねばならないし、続けるつもりである。行動を起こさなければ、この日のような感動の一瞬に巡り会えなかつたであろう。巡り会いの時は最高最良の至福の刻なのである。(中野 林平)



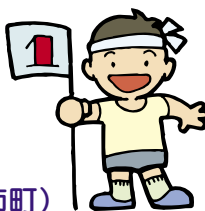
稲葉 修さん撮影



改造三輪車レース参加者募集!!!



昨年、LOVE♥おたフェスタ2007(主催・常陸太田市商工会青年部)の中で盛り上がりを見せた改造三輪車1時間耐久レース(CⅢ Grand Prix)が会場を交流センターふじに移して開催されます。是非、皆さん、奮ってご応募下さい。



1. 日 時 平成20年10月19日(日)
2. 場 所 交流センターふじ駐車場(高柿町)
3. 内 容 チーム3名以下による1時間耐久レースです。
参加するにあたり必要なものは、改造三輪車、ヘルメット、手袋等です。上位チームには豪華な賞品を用意してありますので多数の参加をお待ちしています。
4. 注 意 事 項 改造三輪車は数台ありますので車両が無くても参加することは可能です。ただし、台数に限りがありますので事前にお問い合わせください。
5. エントリー費 1人 1000円(保険代込み)
6. お問合せ・応募先 常陸太田市商工会
担当 舘・菊池(TEL・FAX 0294-72-5533)



LOVE♥おたフェスタを
愛するブログを開設
しました。





『ぼた餅の甘み』

自分で作ることはあまりないが、よく近所からおやつにぼた餅を頂く。福島出身のTさんの作るじゅうね(エゴマ)ぼた餅は手のひらほどもあるもので、じゅうねを砂糖とすりつぶしたのがたっぷりまぶしてあった。友達のAさんが作るぼた餅は中にあんこを詰め外にきな粉のまぶしてある食べやすい1品。お盆のとき近所で頂いたのは、お重の中につぶあんがたっぷりくっついたもの。

年輩の方の話では「盆にぼた餅、彼岸に団子」といったり、「刈り上げぼた餅、すすきぼた餅」というのがあるそうだ。稲刈りが無事終わった後に、労をねぎらい食べるのが刈り上げぼた餅。また年末の大掃除で天井のすすきを払った後に食べるのがすすきぼた餅。何か大仕事をやり終えたときのご褒美のようなもので、労働意欲を湧かせるための人の知恵だったのだろう。一昔前はぼた餅は日々の労働をねぎ

らって作るおやつ。もち米と小豆など身近な材料で簡単に作れるのも忙しい時に適している。でも今はわざわざ作らなくても甘いものは日常にあふれているから、ぼた餅を作る人も少なくなったと思う。甘いものが貴重だった頃など私たちの世代では経験していないし、買ったりもらったりすることに慣れてしまったから、ぼた餅のために働くことなど想像しがたい。

昔、タイの山岳少数民族の村に数週間滞在したとき、ほとんど自給自足の村人との食事の中で、甘いものを口にするのはめったになかった。しかしある晩、家主が晩ご飯のあと、子どもを使いに行かせ、村の店で黒砂糖の塊を買ってきた。それをお茶を飲みながら皆で分け合って食べたとき、その甘みが強烈に体を溶かし、ほっとしたのを覚えている。

メタボだ肥満だといっている私たちは、一度砂糖断ちでもしてみなければ、昔のぼた餅のありがたさはわからないのだろう。甘い物好きのうちの子どもたちにもよくタイの話をするのですが、まるでヌカに釘のようです。(笑)

(木の里農園 布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス ④

スミレが高校生になって携帯電話を持たせました。便利です。すぐ連絡がとれるし、部活動で遅くなったときなど、帰り道のどの辺にいるか、地図が出て検索することが出来ます。入学したての4月ごろ、相次いで女子高生の不幸な事件があったので、心配して待っている私にとってはありがたい機能です。

携帯電話は、使い方によっては便利ですが、使い方を間違えると子どもにとっては「危ないおもちゃ」です。電話は元からコミュニケーションの道具です。私が高校生の頃は、家の電話で長話。よく叱られました。「緊急連絡方法としての機能を果たさないからいい加減にしろ」「学校でしゃべって来い」と言われました。今の子どもたち、電話はあまりしませんね。主にメールでのやり取り。時間をあまり気にせず、メールを送り相手の都合の良い時に返信。でも、生の声を聞いたり、相手の表情を読めないメールは伝達の一助になっても情操は育たないように思える……と言うのは私を含め普通の大人が持つ感想だと思えます。

私たちに、表情という一つのコミュニケーション技術があります。「こう言ったら、嫌な顔をした。」「こう伝えたら顔がパッと明るくなった。」そういう事を見て、感じることは大切なことですよね。ほら、スミレさん、お母さん心配そうな顔しているから気をつけようね。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

古い人間ですから(ーー)



リレー
エッセイ「思い出の絵本」『たいせつなきみ』 ～40～ (大里町 千葉 智子)

「何これっ。ひどい…」その時、私は、あまりのショックに言葉が出ませんでした。

私が一番大切にしていた絵本の表紙が、破られていたのです。私がつめ息をついていると、突然、傍にいた8歳の娘が泣き出しました。娘は「ごめんなさい」を繰り返し、なかなか泣きやみません。私に似ておつちよこちよいの娘は、きつと、こっそり絵本を読んでいて、何かの拍子にうっかり破いてしまったのでしょうか。そして、いつもみたいに、怒るでも問い詰めるでもなく、ひたすらショックを受けている私を見て、これは大変な事をしてしまったようだと感じたのかもしれない。

「たいせつなきみ」という本は、私が結婚して故郷を離れる時に、親友がプレゼントしてくれた物で、悩んだり、落ち込んだりした時には、何度もこの本に励まされてきました。優れている者には、金のシール、だめな者には灰色のシールを毎日貼り付け合っている小人たちのお話で、主人公のパンチネロは、みんなから体中に、灰色のだめシールを貼られてしまった小人です。そのパンチネロが、不思議な小人ルシアや彫刻家のエリに会い、本当に大切なことに気付いていくという物語。以前、一度だけ読み聞かせたのは、長女が3才の頃でした。「楽しいお話じゃないからこの本は嫌。」と言っていたつけ。

でも、この日、泣きはらした目で、娘は最後にポツリとこう言ったのです。「お母さん、これ、すごくいいお話だったんだね。」って。ああ、娘もいろんな経験をして、何かに少し傷ついて、そう感じられるほどに成長していたんだな…。私の中の悲しみが一瞬にして消えて、娘と破れた表紙が、急に愛おしく思えた、そんなできごとでした。

(次回は 大平町 小澤 恵美さん)



ちよつとひといき

今後期待のおいしい粉「きぬの波」

みなさん「うどんなんて輸入品の小麦粉でしょ」とか思っていますか？そんな中、少しずつ注目を集めているのが、「きぬの波」という品種です。うどんにした時の風味、コシ、滑らかさがすばらしく、塩町館（&慈久庵）のオーナーである小川宣夫さんも3種類の小麦粉ブレンドから100%きぬの波にしたそうです。

伊勢又米穀製粉の多賀野弘泰さんは「たくさんの農家が栽培してくれれば“常陸太田産きぬの波100%使用”とい

うブランドうどんを作れるかも」と語ってくれました。

市内で一軒、また一軒とチョットずつではありますが、栽培農家も増えてきているようですので、もっとおいしいうどんが食べられるように応援していきたいです。



塩町館 玉子つきせいろうどん(写真は大盛です)

(武藤 邦宏)

ウィークエンドシネマランド

ところ:生涯学習センターふれあいホール 入場無料(入場券が必要です)

8月23日(土) 『ビルマの豎琴』1956年作品 主演:三國連太郎、安井昌二 監督:市川崑
①9時30分～ ②14時00分～

太平洋戦争末期のビルマを舞台に、日本軍の説得に向かったまま消息を絶った水島上等兵の心の変容をミステリアスに綴る感動のドラマ。市川崑監督独特の鋭いカットつなぎで、繊細な映像を表現している。

10月18日(土)

『キューポラのある街』 ①9時30分～ ②15時30分～



「私が棄てた女」の浦山桐郎監督のデビュー作。鋳物工場の街・埼玉県川口市を舞台に、貧しくとも強く逞しく、明るく美しく生きてゆく若者達の姿を、鋭い社会派的視点も交えながら等身大で描いている。ヒロインの吉永小百合は当時18歳という若さで史上最年少のブルーリボン賞主演女優賞を受賞。ちなみに「キューポラ」とは、鋳物を溶かす小さな溶鉱炉のことである。

『銀座の恋の物語』



①12時30分～
②14時00分～

銀座の街を舞台に、貧乏画家の青年が貧しさにめげず、明るく強く逞しく生きてゆくさまを描いた作品。出演は石原裕次郎、浅丘ルリ子、ジェリー・藤尾、江利チエミほか。

問い合わせ先:常陸太田市生涯学習センター TEL 0294-72-8888